

第5回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会

発言要旨

平成27年7月23日

竹富町

企画財政課

発言要旨

1. 「6パターン」の評価結果に関して

上妻委員長

- ・竹富町に最もふさわしい「新庁舎・支所等の機能分担のあり方」を抽出すること目的に、委員一人ひとりに直接評価をしていただき、今回、その集計結果を取りまとめた。
- ・「西表か石垣か」という二者択一ではなく、複数のパターンを設定し、できるだけ丁寧な検討を行うという趣旨で作業を進めてきた。
- ・その結果、「西表に本庁舎を移転。石垣に支所を新設。各島の出張所の配置・機能を強化する」という〈パターン6〉が最も高得点となった。
- ・的確なコメントや重要な指摘が多数あった。単純な数字の集計だけでなく、評価に伴うコメントも大切と考え、提言文書に記録した。

2. 町への「提言書」に関して

上妻委員長

- ・〈はじめに〉は、提言の本文をより分かりやすく、より理解していただきやすいようにという趣旨で書いた文章である。
- ・その中で、この委員会では、新庁舎の建設地に関して、「西表島への役場移転」を与件・前提条件とはしなかったこと、町全体の住民サービスの向上に関わる「新庁舎を含む行政施設のあり方・配置」を検討の焦点としたことも明記した。
- ・〈提言〉は、「現状認識」と「新庁舎建設のあり方に関する提言」の二つの柱で構成している。そもそもこの委員会がどういう現状認識をもって提言をまとめたのか、というのは大事なところ。「現状認識」では、庁舎の移転・建て替えに関わる概況、現庁舎の立地についての認識を整理している。
- ・当委員会では、ハコモノの庁舎についてだけでなく、新庁舎の建設を契機とした新しいまちづくりに関しても論議を重ねた。海上交通ネットワークの強化、医療・福祉・教育の充実などを含め、提言には、竹富町が目指すべき方向、新庁舎整備と今後のまちづくり、環境の保全にあたって留意すべき事項などをまとめている。
- ・〈鑑(かがみ)〉文書には提言の要旨を整理した。本体の提言文書は関連資料も合わせて50ページ近い。鑑文とセットで理解していただければと考える。
- ・今後、町民の皆さんに説明を行う立場にあるのは竹富町役場。その際は、この提言では

なく、提言を受けて町としてはこういう方針でいきたいということを説明する必要がある。そのような趣旨で、町が「新竹富町役場に関する基本方針(仮称)」のような方針・プランを定め、町民の合意形成と具体的取組みを促進することを強く期待する、と明記した。

赤嶺委員

・庁舎を移転するためには、住民をいかに説得できるかが重要。長年住み慣れた環境が、移転によって状況が一変するところもある。不安や懸念を払拭する手立てが必要。

今井委員

・財源、環境問題、ゆくゆくはまちづくりの課題、雇用創出問題など、いろいろな課題が出てくると思う。今回の提言をふまえ、これから細かい落とし込みを町がやっていけば、より説得性があると思う。

池間委員

・私たち委員に課せられた、町役場のあり方とか、どこがいいのかとかいうことも含めて、基本的な考え方や方向性についてはしっかり議論をして、文書に示すことができた。
・あとは、町が基本プラン・基本計画を作るなりして、町民に説明できる材料を揃えていくこと。委員会は公平性や考え方を検討し、町に提言した。このことが町民にも伝われば良いと思う。

島袋委員

・鑑文の最後の締め括り（本「竹富町新庁舎建設のあり方に関する提言書」の内容をふまえ、竹富町が、町民の合意形成に向けた努力とともに、地域の発展に寄与する新庁舎建設事業を推進することを強く期待する。）では弱いのではないか。もう一段落、申し送りのようなタイトルを付けて、町がすべきことを明確にするほうが良いのではないか。

越善委員

・提言の内容については異存ない。
・この提言に基づいて、これから竹富町が肉付けをし、住民に説明を行っていきだろう。＜パターン6＞のインパクト・強さがもう少しあれば、より上手くまとまっていくのではないか。

●財源・予算について

大浜委員

・通じていいまとめになっており、提言書として良いと思う。

・財源・予算のことは委員会での意見としてあるが、提言には載っていない。今言う必要があるかどうか分からないが、大事なポイントだと思う。すなわち、計画は立てた。では、投資の継続性はあるのか？ということ。

・実施を担保できない事業はビジネスではやらない。施策の担保についてきちんと説明ができるか。そうした点について、提言に入れるのか、資料として入れるのか、今後の整備計画に委ねるか。町がすべきことを申し送りできるかが気になるところである。

今井委員

・財源、お金をどこから工面するか。そこは肝ではないかと思う。

土屋委員

・それぞれの島の機能を充実する、あるいは職員が通勤するということになれば、人件費や通勤費などそれなりの手当てをする必要がある。それが可能かどうかは、委員会の論議の中では出てこなかった。しかし、お金の問題は重要なポイントなので、ある程度試算をしておかなければ具体性に欠けると思う。これから準備して議論を発展させて頂きたい。

上妻委員長

・内容によっては、フィジビリティスタディが必要な事項もあるだろう。

・当委員会としては、まず、「パターン6が最もふさわしい」という評価結果を町に真摯に受け止めていただき、それを具体化するため、施設整備費や人件費を含む具体的な検討を求め、と書くのが妥当かつ精一杯なところではないか。

●交通体系について

大浜委員

・海上交通に関わる事業などはきちんとした事業を実施しなければ破綻してしまうこともある。説明の際には、それが担保できるのか？という問題が必ず出てくると思う。

・一括交付金も毎年決まった額が確保されているわけではなく、しかも時限立法に基づく措置で、永続的なものではない。一括交付金に依拠した社会実験ばかり行うのではなく、事業の実施効果をふまえ、どのようなシステムを構築していくかが重要な問題。

赤嶺委員

・利便性に関して、運賃が安くなったというだけでは説得力がない。現状の交通体系は、石垣を拠点としたものばかりなので、大原を中心とした交通機関の検討や実証実験などに取り組んでもらいたい。例えば住民向けの実証実験、観光関係の実証実験など。その辺も十分に議論し、具体的な対策を進めていただきたい。

●環境への影響について

土屋委員

・西表に庁舎を移転した場合、すべての職員が家族とともに移動すると想定していたので、西表島における教育や医療の問題、関連施設・設備の問題は十分検討しなければいけない等の発言をしてきた。しかし、多くの職員が石垣から通勤する可能性があることも聞き、職員の皆さんの意思や考え方をふまえておくべきではないかと感じた。

・職員全員が移動する場合と職員の一部が移動する場合では、西表の環境に対する負荷も異なってくる。そこで、これぐらいの規模の移動があった場合、環境への負荷がどれほどあるかなど、おおまかな数字を出すべきという提言をした。

・その後、事務局、委員長と意見交換を行う機会も経て、今回の提言になっているので、これ自体に反対しているわけではない。但し、国立公園に関しても、世界自然遺産登録に関しても、国や世界が注目している島であり、環境面には十分に配慮していただきたい。

●その他

大浜委員

・地方創生の話も出ていたが、人口推計は大事な問題。文書に入れるかどうかは別として、今後の重要なポイントとして認識する必要がある。

三木委員

・人口減少を食い止める有効な手立て／具体的な方策として、町域の中に庁舎を移転する、という考え方があると思う。その辺はどう考えているのか。捉え方が不十分な気がする。

・提言要旨（鑑文）のほうには、西表に本庁を移すという文言がどこにも出てこないが、いかがなものか。提言書（本編）の7ページには、「西表に本庁舎を移転、石垣に支所を新設、各島に出張所の配置・機能を強化」と明記している。＜パターン6＞が竹富町に最もふさわしいと考えられる評価を得たことを、提言要旨にも付け加えられるべきではないか。